

トワーム通信第16号

医療法人社団松弘会
介護老人保健施設トワーム熊谷
埼玉県熊谷市小曾根337-1
TEL: 048-599-3377
2021年9月発行

8月のお楽しみおやつ

熊谷の暑い夏。少しでも「涼を・・・」と、アイスクリームをおやつで提供させていただきました。食べるだけでなく、トッピングも楽しんでいただこうと、ホイップクリームにストロベリー・ブルーベリー・チョコの3種類のシロップとスプレーチョコ、黒蜜ときなこをご用意。好きなシロップを選んでいただけます。このご時世なので感染予防の観点から、アイスクリームはディッシャーなしで器に丸く移せる「ポーションクイックアイスクリーム」というものを用意しましたが、これがひっくり返ってしまって職員は悪戦苦闘。(笑)でもとっても美味しそうに出来上がり、一人一人お配りすると、皆さん「美味しい美味しいっ！」と、ペロりと完食!!「おかわり!!」の声も聞こえてきました。普段のおやつでは提供されないアイスクリームに、皆さんとても喜ばれておりました。

- パナライス
トッピングメニュー
- チョコソース
 - イチゴソース
 - ブルーベリーソース
 - 黒みつきなこ



おやつレク〜トマチー餃子〜

今回のおやつレクは「トマチー餃子」、トマトとチーズの餃子を作りました。種はひき肉に玉ねぎ・マッシュルーム・チーズにバジル。「餃子にトマトなんて入れたことないわ〜っ!」と皆さん(笑)。感染予防の為ディスポをしての調理となりましたが、皆さんとても上手に餃子を包んでいました。餃子はフライパンではなくホットプレートで蒸し焼きにします。水分がなくなってきたらオリーブオイルを回しかけて焼き目をつけます。香ばしい香りに食欲がそそられます。焼きあがった餃子にはレモン汁をかけていただきました。またスープ餃子も作り、職員が適当に味付けしたスープを、お客様に味見をしていただき調整していきます。「とっても美味しい」のお言葉をいただき、今回のおやつレクも大成功でした。



トワームの夏野菜

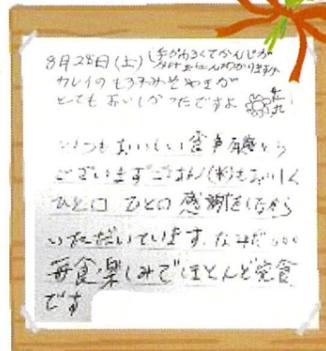
この夏、トワームではたくさんの夏野菜が採れました。しかもどれもとっても立派!!



デイケアでは塩もみをしたきゅうりや、ミニトマトをマリネにしてお客様に提供。療養棟でもおやつレクの際に採れたてのきゅうり・なす・みょうがをお客様に切っていただいて浅漬けを作り、皆さんにトワーム産の夏野菜を味わっていただきました。



〜素敵なお手紙のご紹介〜
お食事の終わったトレーの上にお手紙を添えて下さるお客様がいらっしゃると厨房さんよりお話がございました。



とても心温まるお手紙でしたのでご紹介させていただきます。厨房のグリーンハウスさんから皆様へメッセージもいただきました。

「今日も御飯おいしかったよ」「焼きそば食べたい」「今度天ぷら出してほしい」「少し肉が硬かったかな」等いつも声をかけてくれることでおいしい食事が提供できています。これからもおいしく楽しく食べられる食事を提供していきますので、楽しみにしててくださいね。

頂いたお手紙は厨房で大切に飾っており、私たちの力の源になっています。心のこもったお手紙本当にありがとうございました! グリーンハウス一

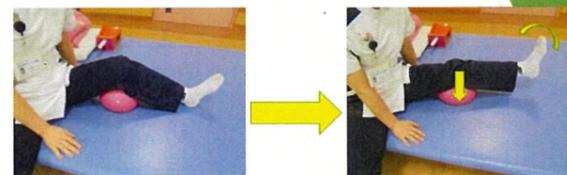
限度額認定証をお持ちの方へ

令和3年8月1日より限度額認定証の区分が第2段階・第3段階①・第3段階②と分かれ、介護保険施設における食費の負担限度額が下記の通り変わりましたのでお知らせいたします。

【施設入所】	
第2段階	変更なし
第3段階①	変更なし
第3段階②	650円 ⇒ 1,360円

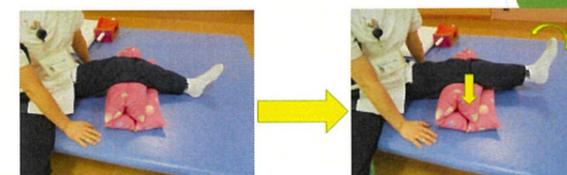
【ショートステイ】	
第2段階	390円 ⇒ 600円
第3段階①	650円 ⇒ 1,000円
第3段階②	650円 ⇒ 1,300円

膝周りの運動



膝の下にボールかタオルを置きます。膝を伸ばし、つま先を挙げて10秒キープします。* 5回×2セット行いましょう。

膝周りの運動



膝の下にボールか丸めたタオル・クッションを置きます。膝を伸ばし、つま先を挙げて10秒キープします。* 5回×2セット行いましょう。

施設長

矢島の独り言

8月15日5:00にNHKテレビ「こころの時代」でコルベ神父のことが紹介されていました。ご存じの方もいらっしゃるでしょうが、感銘を受けたので書かせて戴きます。コルベ神父が10歳の時に聖母マリアがコルベ少年の前に現れて白と赤の2つの冠を示し、「どちらの冠が欲しいか」とお聞きになりました。「両方ともください」と彼は答えました。白は生涯純潔を保つこと、赤は殉教者となることを意味していました。コルベ神父は1930年(36歳)に長崎へ上陸し、6年間日本に滞在して修道院創設、学生の教授、長崎ルルドの泉の整備などに力を尽くしました。母国ポーランドに戻った後、1941年2月母国はドイツ軍に占領され、コルベ神父は政治犯としてナチスに捕らえられてアウシュビッツ強制収容所に送られました。同年7月29日に脱走者が出たことで、無作為に選ばれた10名が餓死室へ送られることになりました。選ばれた中の1人が泣き叫んだのを聞いてコルベ神父が身代わりを申し出て他の9人の囚人と餓死室へ送られました。2週間飲まず食わずでしたが、当時餓死室の様子を見た人は祈りと歌声で聖堂の様だったと証言しています。8月14日10人中4人はまだ息があったので、コルベ神父と共に毒薬を注射されて永遠の眠りにつきました。47歳で亡くなった彼の顔は輝いていました。1人の神父が他人の身代わりになって死んだという噂は収容所に広まりました。コルベ神父の亡骸は、翌日の8月15日に火葬場で焼かれました。この日はコルベ神父が生前この日に死にたいと言っていた聖母マリアが亡くなった祝日でした。身代わりで助けられた人は収容所が連合軍によって解放されるまで5年5カ月生き伸び、母国ポーランドへ帰って93歳の長寿を全うされ、コルベ神父が開いた修道院の墓へ埋葬されました。彼は数少ないアウシュビッツの生存者と自覚し、1995年に亡くなるまでポーランド国内ばかりでなくヨーロッパ、アメリカへ出かけて各地で殉教者コルベ神父について講演活動を行いました。

